

平成25年1月15日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所長  
中島 正愛

### 教員の公募について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とする全国共同利用の研究所であり、5研究部門・6附属研究センターによって構成されています。平成22年度より、「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」に認定され、より広範な共同利用・共同研究を推進しております。

このたび、下記の通り教員を公募することになりました。つきましては、ご多用のところ、まことに恐縮ではございますが、関係各位の皆様方にご連絡いただくとともに、適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

### 記

1. **公募人員：** 教授 1名
2. **所 属：** 水資源環境研究センター 地域水環境システム研究領域
3. **研究内容等：**

水循環システムに関する十分な知識を基礎に、河川流域における水災害と水資源管理の両面からのリスク評価と適応策の検討に関する研究、さらには、気候変動が水資源を通じて社会や環境に及ぼす影響とその不確実性の評価に関する研究を推進する。これらの研究をアジア地域等の河川に適用し国際共同研究として展開する。また、京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻の教育を担当する予定である。
4. **任用時期：** 可能な限り早い時期
5. **応募資格：** 博士の学位を有すること。  
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
6. **提出書類：** 次の(1)～(6) 各一式
  - (1) 履歴書
  - (2) 研究業績一覧（査読付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに区分けしたもの）
  - (3) 主要論文別刷（コピー可）5編
  - (4) 研究業績の概要（A4用紙2枚以内）
  - (5) 今後の研究計画及び抱負（A4用紙2枚以内、説明図の利用可：これまでの実績を踏まえてどのような研究を行うか、応募者の考えを示すこと）

(6) 推薦書（または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先）

7. **公募締切**： 平成25年4月12日（金）【必着】

8. **書類提出先**：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付  
水資源環境研究センター 地域水環境システム研究領域 教授候補者選考委員会 宛  
（封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し、郵送の場合には書留にすること）

9. **問い合わせ先**：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付  
水資源環境研究センター 地域水環境システム研究領域 教授候補者選考委員会 宛  
e-mail: [apply\\_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp](mailto:apply_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp)  
（封書あるいは電子メールに限る）

10. **その他**：

応募書類に含まれる個人情報は、選考および採用以外の目的には使用しません。

なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

## 水資源環境研究センターの概要

### 1. 研究目的及び研究内容の概要

水資源環境研究センターは、水資源問題に関わる自然・社会現象を理解する目的で、1978年に設立されました。本センターは、水に関する諸問題を科学的かつ学際的に研究しており、その基本方針は、1) 100年以上の時間スケールで持続可能な水資源管理のあり方の流域スケールでの追究、2) 複数ニーズの統合的管理手法の追究、3) 量と質の両面での水資源の健康性・健全性の追求、です。

本センターを構成する3つの専任領域では、水資源問題の解決に資するための経済・社会活動を組み込んだ全球水資源ダイナミクスモデルの開発、複合的環境動態モデルの構築と総合流域管理の提案、自然的（ジオ・エコ）・社会的（ソシオ）環境変化を考慮した水資源リスクマネジメント、などに関する研究を行うとともに、客員領域および平成21年10月より設置された寄附研究部門「水文環境システム（日本気象協会）研究部門」と連携して研究を行っています。

これらの研究では、水資源環境の評価・予測のため、気圏—水圏—地圏を連続体として扱い、流域規模から地球規模までの水循環、物質循環を科学的、定量的にモデル化するとともに、それらに基づいて、気候変動、都市化、東日本大震災のような大規模災害などが及ぼす水資源の社会的・生態的リスクを評価しています。水資源の持続可能性・健全性・安全保障といった観点から、国内河川はもとより、ナイル川、ベトナム紅河流域などの世界の水問題の解決にも貢献する研究を展開しています。また、UNESCO-IHP 研修コースを隔年で開催するとともに、グローバル COE プログラムや博士課程教育リーディングプログラムなどの人材育成プロジェクトに参画しています。

### 地球水動態研究領域

人間の社会・経済活動と地球規模水動態との相互作用を分析し、水資源問題の解決に資するために、経済 - 社会活動を組み込んだ全球水資源ダイナミクスモデルの開発、水資源の時・空間分布状況推定のためのグローバル水文量のダウンスケーリング手法の開発に取り組んでいます。また、地球規模の水動態の結果として発生する水災害を防止・軽減する具体的施策を、人間行動を含めて分析するため、水災害軽減のための地域対応のモデル化と計画手法について研究を進めています。

### 地域水環境システム研究領域

大気と地表水、地下水を含む3次元水循環モデルをベースに地域開発、水利用、汚染物質排出の影響を考慮する水量、水質、生態系から見た複合的環境動態モデルを構築し、水環境・水文化と調和の取れた総合流域管理の概念を提案するとともに、地球温暖化に伴う洪水や渇水への影響評価など様々な研究に取り組んでいます。具体的な研究課題としては、1) 複数評価項目を考慮した河川整備計画の策定方法に関する研究、2) 全球高解像度陸域水循環モデルの開発、3) 超高解像度GCM出力を使った流域環境変化予測評価に関する研究、4) 氾濫・土砂輸送・地下水流を考慮した流域環境評価モデリングに関する研究などを実施しています。

### 社会・生態環境研究領域

水資源における中長期的な環境的課題に取り組むために、自然的（ジオ・エコ）・社会的（ソシオ）環境変化が、水資源システムにどのような影響を与えるかを分析し、リスクマネジメントの観点から研究を行っています。また、水域の生態系サービスの持続的享受を目的とした、治水・利水・環境の

バランスのとれた統合的流域管理手法に関する研究を行っています。具体的には、1) 水資源開発ダムのアセットマネジメント手法と貯水池土砂管理技術の開発、2) 生息場構造を介した生態系-土砂水理連携モデルの開発、3) 水辺環境の利用と生態系の相互作用に関する研究などの基礎的研究課題をすすめています。

### **水資源分布評価・解析研究領域（客員）**

水・熱・物質循環系の動態解析や人間・社会と自然との共生を考慮した水資源システムの評価・計画・管理研究推進に際しての知識供給や技術支援のため、また、社会的要請の大きな時事的課題に対処するために、これらの課題に適した研究者が招聘されます。現在は、水動態モデルシミュレーションやリモートセンシングなどの水文学解析手法を用いて気候変動に伴う流域環境の変化を予測評価する研究や、野外調査とシステム工学的アプローチにより生態系サービスを評価する研究を行っています。

### **水文環境システム（日本気象協会）研究領域**

観測・予測実務に携わる一般財団日本気象協会からの寄附に基づくという特徴を踏まえ、現業としての気象・水文観測や予測と大学での研究成果との連携・融合を意図しながら、水文循環に関連する環境問題および災害について、気候変動や社会変動がもたらすリスク要因を考慮し、そのメカニズムや適応策をシステム論的に考察することを目的としています。具体的には、1) 気象・水文観測情報や予測情報の水資源・水文環境管理、水災害対応への有効利用手順の開発、2) 気候変動や社会変動が都市・地域生活圏の水環境や産業・エネルギー環境・健康衛生環境などに及ぼす影響の把握と、それに基づく新たな水文環境災害シナリオの検討、3) 気候変動や社会変動に関する種々の予測モデルの出力を都市・地域生活圏に対する影響評価に利用するためのダウンスケーリング手法の検討と、それに基づく影響評価のためのデータベース構築に関する研究を進めています。

## **2. 現在の教員構成（平成25年1月1日現在）**

地球水動態研究領域	教授	堀 智晴、助教	野原 大督
地域水環境システム研究領域	教授	（本公募）、准教授	田中 賢治、助教 浜口 俊雄
社会・生態環境研究領域	教授	角 哲也、准教授	竹門 康弘
水資源分布評価・解析研究領域（客員）	客員教授	風間 聡、客員准教授	齊藤 修
水文環境システム（日本気象協会）研究領域	特定教授	鈴木 靖、	
	特定准教授	佐藤 嘉展、特定助教	本間 基寛

-----  
なお、京都大学防災研究所の詳細は下記のホームページをご参照下さい。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>